

みしま野

けいずいじ ほんどう 慶瑞寺 本堂

昭和時代後半に造成された住宅地の奥まった場所に、突如として山門が現れる。少し高台になった境内は一見、入る者を拒絶しているかに見えるが肝を据えて入って見られる事をお薦めする。山門内の境内は面積こそ狭く、京都市内の寺院とは比べるべくも無いが、境内の景観は、此处が住宅地の一角である事を暫し忘れさせてくれる程に雄大で、その懐は大きい。その境内の奥にひっそりと佇んでいるのが「慶瑞寺本堂」である。

慶瑞寺は祥雲山と号し、慶瑞禅寺とも呼ばれる寺院で、宗派は黄檗宗である。寺の創建は持統天皇、朱鳥8年(694)の景瑞寺であったとされる。一時期荒廢の憂目に会うが、富田普門寺の住職であった名僧・龍溪和尚を寛文元年(1661)迎えるに至り、再興され名称も慶瑞寺と改めた。龍溪和尚は普門寺に中国の名僧・隠元和尚を招き、普門寺の興隆に尽力し、更



細やかな設えが散見される慶瑞寺本堂



摂津名所図会

所在地：高槻市昭和台2丁目25番12号
最寄駅：阪急総持寺駅下車 東へ徒歩約15分
若しくは昭和台二丁目バス停より徒歩3分
境内には入れるが本堂内部については寺務所へ問い合わせを。
TEL：072-696-0733

に隠元和尚が宇治に黄檗山万福寺を創建する折にも尽力したとされており、これらの人脈と功績により、慶瑞寺は黄檗宗に転じ、万福寺の直末寺にもなったとされている。

本堂は木造本瓦葺き平屋建てで、裳階があるので屋根は二重になっている。素朴な素木造りであり、床に四半敷きを施す等、禅宗様式の質素な装飾であるが、細やかな設えが散見される建物となっている。本堂の創建年代は入手した資料中には詳らかにされていない。1796年頃に記された『摂津名所図会』には当時の慶瑞寺の様子が描かれている。名称が「富田・慶瑞寺」となっており、境内の伽藍配置状況から推して、「佛殿」として描かれた堂宇が本堂であると考えられるので、本堂の創建は龍溪和尚が入山し、万福寺の末寺として黄檗宗となった頃であると推定され、江戸初期から中期に掛けて建築されたと考える。(神保 勲)